

連邦直轄区武道・踊りフェスティバル

佐藤大使挨拶（2017/6/16）

皆さん、こんばんは。

日本発祥の武道のイベントが、ここブラジルにおいてこのように大規模に開催されていることに、この上ない喜びを感じております。本イベントを企画された伯中西部空手連盟のドミンゴス師範をはじめ、ご尽力されたすべての皆様に心よりお祝い申し上げます。

武道は広く世界中に広がっていますが、伯はその中でも特に盛んな国の1つであり、およそ700万人のKarate-ka、200万人のjudo-kaが日々鍛錬に打ち込んでいると言われています。また、柔道から派生し独自の発展を遂げた（ブラジリアン）柔術は55万人の愛好家を有しています。日本で生まれた伝統的な武道が、日系移民によって伯に持ち込まれ、このように大きく発展していることを大変嬉しく思っております。

皆さんご承知のように、武道は単なるマーシャルアーツではありません。日本では2012年に中学校で武道が必修化され、多くの学校が空手や柔道を取り入れて教育活動を行っています。勇気、誠実、礼儀、勤勉、忍耐、卑怯を憎む心など、人として生きていく上で極めて重要な価値観を武道は我々に教えてくれます。

特に空手は、2020年東京オリンピックで正式種目として採用されたところです。これを機会に空手が伯において益々盛んになり、空手を通じて日本や日本文化に親しむ伯人が増えることは、日本人と伯人の友好関係を更に深めることになるでしょう。

来年は日本人伯移住110周年の節目の年となります。そして、2020年にはリオから東京へオリンピック・パラリンピックが引き継がれます。このような大事な時期に、今年から2020年までカウントダウン方式で毎年開催される本イベントが、武道の発展はもとより、日伯関係の益々の深化につながることを祈念致しまして、私からの挨拶とさせていただきます。有り難うございました。（了）